

小学校第1学年 造形遊びをする活動と相互に関連する鑑賞の活動

【学習の方向性】	○材料を基に造形的な活動を思い付き、思いのままにつくる。 ○活動したことや表現したものの面白さや楽しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。【A表現(1)ア(2)ア】【B鑑賞(1)ア】〔共通事項〕
【題材名】	<h1>ならべて ならべて</h1> <p>～いろいろしをならべていると…どんなことができるかな～</p>
【題材目標】	○色短冊を並べる活動を通して、いろいろな形や色に気付き、材料に十分に慣れるとともに、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくるようにする。 ○色短冊の形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えるとともに、自分たちの表したものの造形的面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げるようにする。 ○楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうとともに形や色などに関わり、楽しい生活を創造しようとする態度を養うようにする。

【題材の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・色短冊を並べる活動を通して、いろいろな形や色、触った感じに気付いている。 ・材料に十分に慣れるとともに、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくっている。	・自分のイメージをもちながら、色短冊の形や色などを基に、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。 ・自分たちの表したものの造形的面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。

本題材における〔共通事項〕の捉え

- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。
- イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

自分の感覚や色短冊を並べる行為を通して、いろいろな形や色に気付き、形や色などを基に、自分のイメージをもつ。

	活動	具体化した評価の例 【評価方法】	知・技	思・判・表	主体的
1	○材料と出あう。 ○色短冊を並べることを楽しむ。 ○いろいろな形や色を見付け、活動を考える。	知・技 ・色短冊を並べる活動を通して、いろいろな形や色に気付いている。 ・材料に十分に慣れるとともに、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくっている。 【観察・写真記録】	●	●	●
2	○どのようなことができるのか、個人やグループで考えながら活動する。 ○活動したことをお互いに見合う。	思・判・表 ・形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、色短冊の形や色などを基に、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。 【観察・写真記録】 主 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。【観察・写真記録】	●	●	●

1. 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

①どの資質・能力を、どの場面で評価する？ 評価規準を具体的にすると？ そのための声かけは？

※造形遊びは、活動が次々と展開していくため、写真や映像の記録が有効。

②〔共通事項〕の捉え

知識（低学年）

色短冊を並べる活動を通して、いろいろな形や色に気付いている。

低学年・・・いろいろな形や色、触った感じ（形状や大きさ、長さ、色の種類、材料による触感の違い）

中学年・・・形の感じ、色の感じ、色の明るさ、材料の組み合わせた感じ（形の柔らかさ、色の冷たさ、色の組み合わせによる感じ方、面と面が重なることでの前後の感じ など）

高学年・・・動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさ（形そのものがもつ方向感、表面の材質感の違い、色の鮮やかさ、時間的な変化の動き、量感や奥行きの感じ、ものの動きやバランスなど）

⇒これらを子どもが理解できるようにするには…

③3つの工夫と1つの視点

→出あいの工夫・・・6色（黒・白・青・黄・緑・赤）の十分な量の色短冊

→場の設定の工夫・・・広い場の設定（今回は、体育館の1/4程度）

→共感的支援の工夫・・・子どもの行為や形や色などへの気づきを教師が具体的に言語化・思いを引き出すなど

→小中一貫の視点・・・1年の研修会（長谷川）→・・・→高木先生6年の研修会 → 中学

④カリキュラム・マネジメント

教科横断的な視点や地域との連携などの振り返り

2. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善における子どもの変容

①造形的な見方・考え方を働かせるには・・・

「感性や想像力を働かせ、造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出す」

②「主体的な学び」のための授業改善の視点

⇒自分の変容を実感できる主体的な学びにするためには…

⇒自分が自己調整をしながら、粘り強く学び続けるためには…

③「対話的な学び」のための授業改善の視点

⇒材料との対話・自分との対話・友人との対話のなかで、見方や感じ方を広げたり深めたりするには…

④「深い学び」のための授業改善の視点

⇒「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現や鑑賞を相互に関連させて発揮させるには…

4月の講演会の内容（「自分からやってみるといいな」「友だちと話すと新しい考えが生まれる」など）
指導者が意識しておくこと+3つの工夫などの環境づくり+α